

京都府生協連ニュース

<第51回通常総会特集>

2004年6月25日・No.51(通算117号)
京都府生活協同組合連合会
京都市中京区烏丸夷川東南角せいきょう会館2階
TEL. 075-251-1551
FAX. 075-251-1555

第51回通常総会開催

～全議案を可決承認、小林智子新会長理事をはじめ、役員22名を選出～



6月8日(火)、池坊学園洗心館にて開催



京都労働者福祉協議会 木戸美一会長



京都府商工部 黄瀬謙治次長



小林智子新会長理事

当日は、お二人のご来賓よりご祝辞を頂戴しました。(黄瀬次長には、京都府 山田啓二知事のご祝辞を代読いただきました)
今期の役員改選で吉田智道会長理事が退任、総会途中に開催された理事会で、新しい会長理事に小林智子理事が選出されました。

CONTENTS

1. 京都府生協連 第51回通常総会報告
2. インフォメーション

京都府生協連第51回通常総会報告

6月8日(火)午後1時30分より、池坊学園洗心館で、「京都府生活協同組合連合会 第51回通常総会」が開催されました。

今総会の代議員総数は41名で、当日の代議員出席は41名(うち委任出席1・書面出席8)、役員・来賓ほかあわせて、70名の参加となりました。

吉田智道会長理事が開会のあいさつをのべ、つづいてご来賓のみなさんをご紹介します。

京都府知事山田啓二さん(代理・京都府商工部次長 黄瀬謙治さん)、京都労働者福祉協議会会長 木戸美一さんからは、それぞれご祝辞をいただきました。また、日本生協連関西地連事務局長 川村恵彦さんにご参加いた

だきました。

あわせて京都府議会議員、京都市長、国会議員各、関係団体、各生協などからいただいた63通の祝電・メッセージをご紹介します。



開会のあいさつをのべる
吉田智道会長理事



今総会の議長を務めていただいた、大学生協京都事業連合の横山治生代議員



2003年度の監査報告をする新堀悟史監事

〈お寄せいただいた祝電・メッセージ〉 (順不同・敬称略)

民主党衆議院議員 玉置 一弥
民主党衆議院議員 泉ケンタ
民主党参議院議員 福山 哲郎
民主党参議院議員 松井 孝治
公明党衆議院議員 池坊 保子
日本共産党衆議院議員 こくた 恵二
日本共産党参議院議員 市田 忠義
日本共産党参議院議員 西山 とき子
公明党衆議院議員 山名 靖英

京都府議会議員 田坂 幾太
京都市長 榎本 頼兼
京都商工会議所会頭 村田 純一
JA京都中央会会長 中川 泰宏
京都府漁業協同組合連合会代表理事会長 上田 功
京都府社会福祉協議会会長 北川 龍一

全議案が可決・承認されました

提案された8つの議案について、1～7号の各議案は満場一致で可決・承認されました。8号議案 役員選挙については、理事・監事とも立候補者数が定数内であったため、役員選挙管理委員会の委員長より、定款と役員選挙規約にもとづき全員を無投票当選とする旨が当日会場にて報告されました。

議 案	反対	保留	賛成	合計
第1号議案 2003年度 活動報告・決算報告承認の件	0	0	40	40
第2号議案 2003年度 剰余金処分案承認の件	0	0	40	40
第3号議案 2004年度 活動方針・活動計画および予算決定の件	0	0	40	40
第4号議案 2004年度 役員報酬限度額決定の件	0	0	40	40
第5号議案 会員規約の一部改定の件	0	0	40	40
第6号議案 情報開示に関する規約新設の件	0	0	40	40
第7号議案 議案決議効力発生の件	0	0	40	40
第8号議案 役員選挙				

※出席代議員の合計41名（本人出席32 委任出席1 書面出席8）うち議長1名は採決に参加せず。

【新任役員のみなさん】



理事 黒岩 卓美さん
(生協エル・コープ常務理事)



理事 行松 龍美さん
(やましろ健康医療生協専務理事)



監事 佃 政治さん
(京都大学生協常務理事)

【退任されたみなさん】

会長理事 吉田 智道さん（員外）

理 事 森川 隆さん（やましろ健康医療生協理事）

監 事 宮村 浩一さん（京都大学生協前常務理事）



退任の挨拶をする吉田智道さん(右)と宮村浩一さん(左)

【京都府生協連2004年度役員体制】（6月25日現在）

<会長理事>小林 智子（京都生協理事長）

<専務理事>小峰 耕二（京都生協常務理事）

<常任理事>小川 正（京都府庁生協常任理事<総括>）
酒井 克彦（大学生協京都事業連合専務理事・池坊学園生協専務理事）

<監 事>島田 浩（京都府庁生協監事）
新堀 悟史（乙訓医療生協理事）
佃 政治（京都大学生協常務理事）

<理 事>粟飯原 利弘（龍谷大学生協専務理事）

大関 建朗（乙訓医療生協専務理事）

大竹 聖和（同志社生協専務理事）

大塚 正文（京都橘女子学園生協専務理事）

木村 世志雄（全京都勤労者共済生協専務理事）

黒岩 卓美（生協エル・コープ常務理事）

佐藤 京子（やましろ健康医療生協理事長）

吹田 知久（京都府医大・京都府大生協専務理事）

平 信行（京都大学生協専務理事）

高田 艶子（京都生協常任理事）

田中 弘（京都医療生協専務理事）

寺尾 正俊（京都教育大学生協専務理事）

沼沢 明夫（立命館生協専務理事）

松浦 順三（京都工芸繊維大学生協専務理事）

行松 龍美（やましろ健康医療生協専務理事）

12名の代議員・理事から発言がありました

当日は、12名の代議員・理事から、食の安全・くらしの安心をもとめるとりくみや組合員活動、平和のとりにくみなどについて活発な発言がありました。これらの発言をふまえ、小峰専務理事は、「豊かな組合員活動がすすめられたことが交流できた。今年度も組合員による商品や事業の改善・学習、また、協同の願いや要求にもとづく活動、当面する平和のとりにくみなどに力をあわせてすすめたい。生協としての社会的な発言、政策提案の場が広がってきており、執行部としても力量をつけ、社会的な要請に応えていく」とのまとめをおこないました。

【総会発言の要旨】

1、京都生協 金澤栄子 代議員

「食の安全確保と消費者保護基本法抜本改正のとりにくみから見えてきたもの」



昨年の総会で、食の安全にかかわる法律は制定されたが、実行されるか見ていく必要があると発言しました。それから1年の間に京都生協では、「山城養鶏生産組合コープさくら卵不正出荷事件」と鳥インフルエンザの発生という大きな出来事がありました。卵の不正出荷事件は食品衛生法違反であり、食の安全確保にかかわる重大な事件で多くの教訓を残しました。この件を通じて見えてきたことが二つあります。一つは、事件発生後すぐ行政へ報告したが、当初は法律違反という見解ではなかったこと。法律は制定されても、国・自治体、法・生産者間の認識にはまだ“ズレ”があるのではないかと。また、一般の卵の品質管理基準が生産者まかせであることがわかり、京都生協では厚生労働大臣あてに基準づくりの要請をおこないました。広く消費者全体を視野に入れた食品安全確保にとりにくむことが、生協の役割と考えます。この事件にひきつづき、京都で「鳥インフルエンザ」が発生。コープ卵が出荷できない、食べられないという

大変な状況となりましたが、その中で行政への要請や政党との懇談、他団体と一緒に苦境にある生産者を励ますつどいを開催するなど、生協らしいとりくみができたと思います。食の安全に関わる法律には、「消費者の権利」は位置づけられませんでした。つづく消費者保護基本法改正のとりにくみでは、組合員は「保護」や「権利」ということばへのイメージがわきにくいスタートでしたが、第一ステップとして「くらしの安心学習会」を22会場、445名の参加でおこなってきました。消費者トラブルが急増したことをふまえ、アンケート調査を実施した結果、回答者数の43%が被害を身近に受けた、あるいは見聞きしており、「保護」や「権利」についての学習の大切さを感じました。5月26日に消費者基本法が成立し、「消費者の権利」が法律に位置づけられました。今後どう具体化・実行するかは自治体がカギを握っていると思います。消費者の参画・関わり・役割など、行政とつながっていく視点を大切に、第二ステップへすすみたいと思います。



2、京都橘女子学園生活協同組合 東川絹子 代議員

「京都橘女子学園生協の食堂のとりにくみ」



京都橘女子学園生協は、ここ数年続きで供給アップ、客数アップ、NET改善と経営数値も安定しており、組合員も元気、組合員に働きかける職員も元気な生協です。組合員が元気なのは、自分たちが店舗の企画をしており、数年前から「産直フェア」を実施していますが、それが大きな引き金になっていると思います。山科の農家と産直の契約をしているのですが、先日も「産地見学」を実施、今何が採れているのかを見て、今度はそれをメニューに取り入れています。そのときも学生さんのセンスがよく、ネーミングも「産直フェア」とは呼ばず「グリーングリーンフェア」「新鮮組」など。先月は「桃色乙女フェア」というのをやりました。今年が女子大最後の年となるので、乙女気分を満喫しようという思いがこめられていたのではと思います。食堂

としてもこうしたとりくみに合ったメニューをやろうといふことで、黒酢を使ったメニューを提案したり、学生さんも自分たちでパフェをつくり、レシピやPOPなども自分たちで作成されています。一方、職員が元気なのは、トップがよいところを引き上げてくれているということ、組合員からの「おいしい！」のひとつ。スタッフ名ブランドのケーキ「〇〇さんの手作りケーキ」は提供する側にもされる側にも思い入れがあって好評。今年のテーマは「手作りの生協」です。メニューはもちろん、ディスプレイも折り紙を使って自分たちで工夫しています。また、学生委員会とは別の「ごはんクラブ」の活動では、自分たちが提案したメニューが売れて欲しいという熱い思いから、POPなどにも手がこんでいて、私たちも見ていて楽しく、買ってみたいくなります。今はテイクアウトのお弁当を新しくしようということで、がんばってとりくんでいます。

3、生協エル・コープ 中本式子 代議員

「組合員主体を基本に10年」



エルコープは今年で設立から11年目を迎えました。ずっと小さな新しい生協とって来たのですが、小さいというのは今でもそうですが、新しいというのは少しむづかしくなってきました。当初から組合員主体を基本としてとりくんできましたが、事業面でも、昨年度やとと割戻しができるようになり、そのことで自分たちが事業主体であることを実感できるようになりました。エル・コープの10の地区では、グループ同士のつながりを大切に考えてきました。昨年は環境のとりくみで「松葉によるダイオキシン調査」「自治体の廃棄物調査」また容器包装リサイクル法の動きを1年かけてとりくんできました。

拡大生産者責任ということばを大切にしており、私たちも責任の一端を担うわけですから、3Rの一番は「リデュース」、そして「リユース」、「リサイクル」が一番最後でいいと組合員で話し合いながら、特に「リユース」のビン商品の企画をひとつずつ増やすことにとりくんできました。これはなかなか大変で、実際には相当むづかしいことなのですが、生産者とも話し合いながら、少しずつビン企画を増やしています。食の安全のとりくみでは、小さな生協だからこそできること、生産者とながれることを手放したくないと思っています。「くらしの中で生産者とのつながれること」「ものづくりの過程をくらしの中にひきつけること」「各地の生産地へ組合員が出かけていくこと」など、今後も大切にしながらとりくんでいきたいと思っています。



4、京都生協 斎藤紀子 代議員

「私たちの商品・私たちの商品」



京都生協の組合員の目標は「利用すること」「積立出資すること」「運営に参加すること」。運営に参加することは、日ごろ組合員にあまり意識されていませんが、今の活動からほんの一步足を踏み出すだけでできることです。例えば、私のかかわったとりくみの一つに、商品づくりがあります。各地域で立ち上げた商品づくり委員会で、組合員・職員・メーカーと一緒に意見を出し合い、理想の商品を追求しました。私たちの意見にメーカー側はしっかりと耳を傾けてくれ、可能な限り取り入れて試作品を作ってくれる、そうしたやりとりを通じて「私たちの商品」という意識が芽生え、デビュー後にはその商品を積極的に購入するようになりました。もうひとつに店舗活性化のとりくみがあります。赤字をかかえるお店のランクアップのため、組合員と職員が一

緒になってさまざまな活動をしました。「私たちのお店を守ろう」という熱い思いのもと、職員・組合員の区別なく、お店の経営数値に一喜一憂しながらすすめた結果、閉店にならなかったお店では、今も乱れた棚を直していく組合員の姿を見かけます。こうした組合員活動は、これまでコープ委員会や行政区委員会が中心になって行なわれてきましたが、最近では個人でも気軽に参加できるとりくみが増え、この春からはコープきんき事業連合の試食アンケートにも個人で参加できるようになりました。また、クリスマスケーキの商品づくりでは、デザインも選考者も公募されるため、個人参加が可能です。職員では思いつかない斬新な発想で生まれた今年のケーキは、大好評でした。試食アンケートだけのかかわりでも、その商品には愛着がわきます。生協の働きかけしだいで、もっと多くの組合員に「私たちの商品」「私たちのお店」という意識が広がっていくと思います。



5、乙訓医療生協 中村幹生 代議員

「楽しみながら気楽にとりくむをモットーに」



乙訓医療生協の日頃の活動をちょっとだけ報告させていただきます。モットーは楽しみながら、気楽にとりくむということです。活動は支部を単位にすすめています。「医療生協」という存在はまだ十分は認知されていないと感じますが、支部の活動をすすめることで地域に見えるようになってきたのではないかと

と思います。具体的な活動は、地域の組合員さんの家を借りて「青空健康チェック活動」をおこなったり、『青い空』という機関誌を組合員さんに手配りしています。その配布も協力体制もできあがっており、協力者との懇談会や支部レクレーション、学習会などにとりくんでいます。健康チェックは毎年実施することで健康に注意するようになり、尿中の塩分が少なくなってきた組合員さんが増えるなど、大きな効果があらわれてきています。今

年は自分の健康づくりや病気の管理が手軽にできるように、「健康手帳」をつくりました。レクリエーションでは、前進座のお芝居を見に行ったり、新加入組員歓迎のお花見をしたり、ハイキングに行つて野草の天ぷらを楽しんだり、親睦・交流がとりくまれています。支部では、運営委員会を毎月1回定期開催するように努力しています。そこでとりくみや組員・出資金増やしなどの計画

を立てて運動しています。支部活動が活発になると拠点があつたという意見が出されるようになり、今年の総代会では組員活動の拠点をつくらうという長期計画が採択されました。「医療生協に入つてよかった」と感じてもらえるよう、ひきつづき支部・班の活動をすすめていきたいと思ひます



6、立命館生協 藤城裕佳子 代議員

「食の大切さを実感する活動」



立命館生協では、「魅力ある大学をつくらう」を目標に店舗活動、健康活動の共済、学内環境の向上、『RUC』という機関紙、新入生の歓迎をおもな活動としてとりくんでいます。店舗活動のひとつとして、

昨年11月に「私の食べたいメニューコンクール」を開催しました。これは、自分おすすめの食べたいメニューを応募してコンクールを開き、実際に食堂に置いて食堂を活性化させようというもの。衣笠にある3食堂の職員さんといっしょにとりくみました。募集したところ多数の応募があり、第一次審査で選ばれた11品の試食会を呼びかけたら、およそ50名が参加し、店長たちに作っていただいたメニューを試食しました。そしてその中で人気のあつたゴボ天うどん・オムそば・鴨南そば・野菜たっぷりドリアが実際に食堂に並びました。応募した学生は、まさか食堂に本当に並ぶとは思っていませんでした。健康提案の活動「食生活サポート活動」では、じつは本日の4時半から、事業連合の栄養士飯田さんを講師に迎え、「きちんと食事をしていますか。きちんと作りませんか」という講義を行います。主に新入生を対象として、正しい食生活、栄養の上手なとり方、簡単な自炊の仕方、コンビニ食との上手な付き合い方を教えていただき、実際に栄養士さんと参加者で簡単にできるメニューを作ります。これはもともと大学の教務課で開講された新入生向けの大学生活入門講座の一つでした。今まで私たちも学生に食の大

切さをわかつてもらうための小冊子をつくるなどアプローチしてきましたが、その活動を見た教務課が、いっしょに何かやれないかと声をかけてくれて、共催することができました。私たちは、新入生がこの講義に参加するきっかけづくりのために、当日実習するメニューのシール投票をしました。その結果、鶏肉の田楽風とスパニッシュオムレツと、豚肉と大根の煮物を作る予定です。また、昨日は奈良県の栄養士さんを招いて食生活相談と体脂肪測定、お肌チェックをおこないましたが、そこでも食生活についての様々な相談が出されました。昨日の参加者は200名ほど、今日の講座にどれだけ来てもらえるかはわかりませんが、一人でも多くの人に食の大切さを感じてもらえればと思います。このように、私たちは自分たちが大学生であることを大切に活動しています。これからも、大学に行つてよかったと思つてもらえる小さなきっかけになれるよう、とりくんでいきたいと思ひます。



7、京都府医大・府大生協 笠井宏規 代議員

「パフェが食べたいという声をかたちに」



1回生のとき、新入生を迎える活動の一つとして受験宿泊のボランティアに応募し、そのとき初めて生協の店長と知り合いました。その後学生理事になってから全国総会に参加し、元気な他大学の学生

の活動に衝撃を受けました。組員活動研修セミナーに

も参加して他大学の学生と交流するなかで、自分の大学でも活動できたらなあと思うようになりました。組織として学生委員会があるわけではないので、まずいっしょに活動してくれる仲間を見つけることから始めようと思ひ、総代会前にプレ総代会をやつて、総代会後にも総代会議を開きました。そのなかで、総代の一人から食堂でパフェが食べたいという要望が出されたことから、自

分たちでパフェをつくることになりました。他大学に調査に出かけたり、試作品・試食をくりかえしました。食堂の店長のアドバイスで、材料費と利益のバランスも考え、原価率が50%になるよう工夫しました。このパフェは2週間で400個も売れ、一番多かった日は100個出ました。このとりくみを通じて、かかわってくれた7人の学生も同じと思いますが、生協のお店は仲間が協力しあって作り上げるものということを実感しました。先日開催された大学生協京都事業連合の総会で、パフェづくりにかかわった学生が同じようなことを発言していました。総代会という小さなきっかけから、このような大きな活動に結びついていくことにも確信を得ました。半年もかかりましたが、その間に大学生協連 京滋・奈良地域センターを通じて他大学の組合員・職員とも知り合

うことができ、助けてもらうことができました。今年も1回生がパフェづくりに参加してくれて、参加者も増えています。今後、パフェ以外にもとりくめたらいいなど考えています。



8、やましろ健康医療生協 行松龍美 代議員

「10年目を迎えたやましろ健康医療生協のとりくみについて」



やましろ健康医療生協は設立から10年目を迎え、先日開催した総代会でも、この10年をふりかえってみようということで論議しました。つきあいのある地元紙の記者から、「10年つきあってまだ

医療生協のことがよくわからない。診療所をやっているのに健康な人をつくったらもうからないのではないか。それに10年間苦しい話ばかりしている」いわれました。ふりかえってこの10年間、宇治では2000年にみやこ信用金庫、南京都信用金庫がつぶれ、中央信用金庫とRCCに吸収されました。4年たってもその影響はいまだ多分にあります。また翌年、従業員が2000人いた日産車体の宇治工場が閉鎖しました。いくつかの指標を示すと、宇治市の生活保護者数は、10年前1200人程度であったのが現在は2000人を越えています。自殺者も2000年には22人でしたが、去年は42人と倍増、隣の城陽市、久御山町でも同じ傾向です。人口が変わらないなかで、国民健康保険加入者が5人に1人であったのが3人に1人となっています。失業で国保に入らざるをえない状況となり、さらに保険料が払えない人

も人2000人から3000人に増えています。そのような中ががんばってきたわけですが、活動には何点かのこだわりをもってきました。ひとつは診療所に来てもらうだけではなく、健康な人に活動参加してもらうことです。メインは春に健康まつりというのを開催しますが、診療所の駐車場でいろいろなことをやります。また、年間約700人が健康診断を受けられますし、班会議や医療懇談会等あわせて年間500人くらいが参加します。健康な人が集まって健康づくり、社会保障づくりをしていこうというのがこだわりです。月1回ニュースも発行していますが、これも京都市内は郵送ですが、宇治・城陽・久御山の周辺はすべて組合員が配布してくれます。組合員参加にもこだわりをもってきました。これから5年間辛抱すれば、明るい社会がくるとも思えませんし、保険料はさらに高く、負担は増え、診療所にはかかりにくくなり、病人は増えると思います。せっかく医療生協で活動しているわけですから、生協らしい活動として何ができるのかを組合員と一っしょに考え、今後の柱にしていくべきかと思えます。例えば、市内のメイン道路の横断歩道は、高齢者や障害者が信号が変わるまでに渡るのは大変です。そのようなことで生活圏が分断されている場合に、組合員が買い物についていくなどサポートすることで、自立して生活していけます。買い物さえサポートすれば、家で独居で生活できる人は多い。そういうところで力を出し合い、助け合っていくことが必要だと思います。やましろ健康医療生協は、診療所が一つと介護関係の施設が一つと本当に小さいわけですが、今後医療や社会保障は大変な状況になっていくと思います。今一番の注目は年金ですが、保険料は上がっていきながら、医療・介護関係の報酬は下がっていく、健康や命が政策や国の道具にされている中で、医療生協らしさを残しながらがんばっていきたいと思います。



9、京都医療生協 あざみ祥子 代議員

「平和のとりくみを旺盛に」



5月29日に、京都医療生協の第57回通常総代会が終了しました。かつては6万人という組合員数でしたが、整理されたこともあって実質3万人ほどになりました。今年の総代会では、中野理事長の交代という大きな出来事がありました。他ではそれほど珍しいことではないのかもしれませんが、京都医療生協では歴史の半分は中野先生が引っ張ってこられたわけです。今回少し若い山田先生が新しい理事長に就任されました。これからも、医療の分野でも最高をめざしたいと思いますが、医療生協として組合員を中心に生協らしい活動を再構築してすすめていきたいと思っています。現在は、医療費・薬価が変わる、消費税が変わるということがあって、医療費の計算というのは大変むずかしいです。そのこともあって、スムーズに対応できるように、京都医療生協ではシステムの大改革をおこないましたが、大変なことでした。組合員活動では、要望もあって平和の問題を考えるととりくみをす

めています。先日の総代会では、京都府生協連の吉田会長に来賓のごあいさつをいただき、その中でも平和のご問題についてふれていただきました。会場からももっと平和についていっしょにとりくみたいという意見が出されました。昨年は6月に拡大班活動で平和問題にとりくみました。京都府生協連から長崎・広島の証言ビデオを借りて上映し、みんなで涙を流しながらいろいろな話しをしました。そして若い人たちに戦争体験を語り伝えることがこれからの大切な使命だと感じています。また、昨年は社会保障問題委員会でも平和の問題を取り上げました。戦争体験を語り継ぐ会ということでやったのですが、もと満州開拓団の方のお話を聞きました。今年はそれをうけて舞鶴港・引き揚げ館を見学できればと思い、計画をすすめています。昨年のとりくみのなかの発言で特に印象的であったのが、「軍隊は国民を守らず逃げに行き、そのあと民間人は大変な苦勞を強いられた」という言葉でした。これからもがんばって平和の活動をすすめていきたいと思っています。



10、共済生協 佐藤典治 代議員

「生活保障設計について」



全労済というのは食や医療分野ではなく、保障の生協です。あるいは保険の生協ともいえるのでしょうか。みなさんの活動とは異なりますので、私の報告はたいくつかもしませんがよろしく願います。全労済は7月に総会が開催されますので、それに向けて地区の集会をすすめています。そこで提起しているような、事業計画について本日報告させていただきます。全労済の発足は1954年、大阪で労働者福祉運動の一つとして生まれました。今年度で50周年を迎えます。京都では2007年が50周年の年となりますので、そこに向けて、新たな展開、組合員に役に立つ全労済づくりを計画してすすめていきたいと考えています。2003年度の事業の状況は、おかげさまで順調に伸張しています。成長率は3.4%、生保が少し改善傾向とはいえ、まだまだ厳しい状況にあるなかで、全労済京都がこのような伸張ができたのは、ひとえに府民組合員のみなさんのご協力の賜物と思っています。しかし、中身を見ますと、景気が回復基調にあると言われながら、雇用情勢は極めて悪い。したがって職域の契約については昨年も対前年比マイナスと報告させていただきましたが、今年もそのような状況です。一方、地域のみなさんが利用される国民共済は、8%を超える伸張となっており、事業全体を引っ張っています。これは、国民共済のとりくみをこの1年強化してき

た結果、成果であろうと思いますが、京都府下での加入者は昨年度16万人を超えました。50年の歴史のなかで火災共済からスタートした全労済ですが、生活総合保障として、理解が広がってきたのかなと思っています。一方、生活総合事業という分野も、15年ほど前から手がけていますが、いわゆる高齢社会のサポートをおこなう事業展開ということで、継続的にすすめているのがホームヘルパー2級養成講座です。今年度は30名の受講生を集めていますが、これまでの受講生が400名を超え、その方たちが地域で福祉の分野で活躍されていると思います。あわせて介護サービス事業というのもやっていますが、これは全国20カ所です。いわゆる居宅介護事業と訪問サービス介護事業をしていますが、近畿管内では大阪と兵庫にあり、京都ではまだできていません。京都についてもぜひ実現したいということで、昨年から検討に入り、今年度は実施したいと考えています。最後に、生活保障設計運動ということで、制度を充実させながら組合員の保障をサポートすることが、全労済にとって一番大切だろうと思います。今年度マイカー共済の掛け金を大幅に引き下げながら、より利便性の高い共済にしていこうと制度改革をすすめるということを予定しています。また高齢社会ですので、終身もの、長期の医療共済、あるいは終身の介護共済などもすすめていきたいと思っています。さらに情報提供も充実させながら、とりくんでいきたいと思っています。

11、京都生協 高田艶子 理事

「京都府生協連の男女共同参画委員会のとりくみについて」



京都府生協連の男女共同参画委員会は、発足して5年たちます。5人の委員と一人の事務局で構成され、細々と活動をしています。昨年は主に5つの活動を実施しました。7月の国際協同組合デーの女性交流会では、JA・森連・漁連・生協の女性が、自分たちのおすすめの商品で交流しました。また10月には、京都府の「KYOのあけぼのフェスティバル2003」に参加。京都府内の女性が集まっての交流会に「知っておきたいくらしの中のジェンダー～離婚に見るジェンダー問題～」というテーマでのワークショップを実施しました。11月には国際協同組合デー全体会のリレートークで報告された、森連の京北町銘木生産組合の米嶋理事長を訪問、地域の組合員とも地域・くらしについて懇談・交流しました。12月には、「JA京都女性組織協議会（当時）と生協役員との懇談会」を開催し、京都生協のコープ二条駅を見学、店長から店舗での京野菜の品揃えや供給の状況、また来店組合員から寄せられる声など

を報告いただき、その後、参加者の懇談・交流をおこないました。今年の4月には京都生協のジェンダーフリーを考える懇談会と共催で、「お父さんの育児休業体験記」と題した学習会を開催しました。育児休業を取得した京都生協の男性職員の報告を聞き、身近なジェンダー問題について考え合いました。あわせて関西地連のジェンダーフォーラム懇談会の学習会などにも参加をしてきました。この間のとりくみの中で、JA京都府女性協をはじめ、森連や漁連など、他の協同組合とのつながりは強まったと思います。しかし他方、会員生協の参加、男女共同参画意識の向上・普及となると少々心もとない気がします。昨年の通常総会で、男女共同参画委員会メンバーであるあざみ委員が「京都府生協連ではがんばっているが、会員生協での男女共同参画の考え方そのものの普及はむずかしいのが現実」と発言されました。残念ながらそれは今年も同じ状況ですが、今年度は府の男女共同参画条例についての学習をすすめ、会員生協での意識の向上をめざして委員による出前学習など、これからも地道にとりくんでいきたいと思っています。



12、京都生協 西山政子 代議員

「平和への願いを行動することで伝えましょう」



イラク自衛隊派遣、有事体制づくり、憲法改悪論議のなされる昨今、京都生協の総代会において、平和に対する多くの意見が出されました。これまで、私たち生協では、戦後平和の保障がなければ、人間

としての生活もないし生活用品も手に入らないとの思いから、「平和とよりよい生活」を理念に掲げてきました。京都生協も核兵器を廃絶し、平和を求めるとりくみを全国の生協といっしょにおこなってきました。しかし、いま政府はイラクに自衛隊を派遣し、平和憲法を改悪して有事に適応しようとしています。憲法9条は日本だけではなく、世界の戦争犠牲性によって導き出されたもの。「世界に平和をもたらすことのできる憲法である」と識者がいわれていたのを聞きました。私もそう思います。変えてはならない、変えさせてはならないのです。戦争を知らない世代のみなさん、戦争とは互いの生命を奪い合うことであり、自分の、家族の生命を失うことなのです。生まれてきた目的を果たさず、人生半ばにしてこの世を去る無念さ、悲しさを考えてみてください。第五福竜丸乗組員でアメリカの水爆実験犠牲性となった久保山愛吉さ

んは「原水爆の犠牲は私を最後にしてほしい」という遺言を残されました。来年2005年には、日本は広島・長崎の原爆投下から60周年を迎えます。3.1ビキニデーの“虹のひろば”で、日本生協連の品川専務理事は「本日出発点とし、被爆60周年を見据えて平和を守ろう、核兵器をなくそうの願いを持って、全国でピースアクションのとりくみをくりひろげたい」と呼びかけられました。京都生協でも、今後さまざまな平和企画にとりくんでいきますが、そのひとつが6月21日から26日までのピースリレー（平和行進）です。この期間には立命館国際平和ミュージアムで、館長・立命館大学教授の安斎育郎先生の講演会やミュージアム見学会、絵本『ふりそでの少女』作者 松添博さんのお話なども企画しています。「1人の100歩より100人の1歩」という平和行進の精神を大切に、みなさんも参加可能な時間・場所で平和を訴えて歩きましょう。最後に、ユニセフ憲章には「1人ひとりの心が平和にならなければ真実の平和はない」と明言されています。みなさんに提案します。外に向って平和を訴えるとともに、自分の心が平和であるように努めましょう。それが自己実現の契機であり、生まれてきた意味を知るさきがけとなると私は考えます。

information

<府連・会員生協関連>

京都府協同組合職員体験・交流学校

主催：京都府協同組合連絡協議会（京都府生協連、
JA京都中央会、京都府漁連、京都府森林組合連）
日程：11月5日（金）～6日（土）

2004年度 京都府総合防災訓練

主催：京都府総合防災訓練推進会議
日時：9月5日（日） 7:00～11:30
主会場：相楽郡木津町（私の仕事館西側空地）
※京都府生協連はJAグループとともに緊急物資搬送訓練に参加します。

<行政・他団体関連>

平成16年度環境月間行事 講演会Ⅰ 『環境との共生をめざして』

主催：京都商工会議所
日時：6月24日（木） 13:30～16:30
内容：（1）富山市エコタウン事業について
（2）琵琶湖・滋賀県の環境行政について
（3）京都府産業廃棄物税の概要について
定員：50名（先着順）※参加費無料
会場：京都商工会議所 2階 京都市中京区烏丸通夷川上ル
問合せ：京都商工会議所 産業振興部 Tel. 075-212-6443

平成16年度環境月間行事 講演会Ⅱ 『環境との共生をめざして』

主催：京都商工会議所
日時：6月29日（火） 13:30～16:30
内容：（1）地球温暖化問題に関する当面の課題について
（2）経営と環境の両立に向けて
～キャノンの環境経営～
定員：50名（先着順）※参加費無料
会場：京都商工会議所 2階教室
京都市中京区烏丸通夷川上ル
問合せ：京都商工会議所 産業振興部 Tel. 075-212-6443

京（みやこ）エコセミナー

主催：京のアジェンダ21フォーラム、
京（みやこ）エコロジーセンター
日時：6月26日（土） 15:00～16:30
講師：小幡範雄氏
（立命館大学教授 京のアジェンダ21フォーラム幹事長）
新川達郎氏（同志社大学教授）
定員：30名（先着順）※中学生以上・参加費無料
会場：京（みやこ）エコロジーセンター
京都市伏見区深草池ノ内町13
問合せ：京（みやこ）エコロジーセンター
Tel. 075-641-0911

